

教科【国語】・種目【国語】

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>新しい国語</p>	<p>2</p> <p>東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字一覧が巻末にまとめられており、教材ごとにまとめられている。 ○【類】【対】【意】【文】と教材の下に書かれていて、様々な言葉に触れられる。また、あらかじめ難しい言葉については、注釈が書かれているので、イメージを持ったまま読み進められる。 ○教材の最後に【てびき】【言葉の力】【振り返り】が設定されているので、どのように学習していけば良いかがわかりやすく、どんな力がついたか振り返ることができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材に【目標】【問いかけ】【言葉の力】【振り返り】が設定されている。言語活動のテーマや、そのテーマに対する学習の手立てが【言葉の力】で提示されていて、言語活動に、より取り組みやすくなっている。 ○論理や構成がわかりやすい説明文や論説文が多く取り上げられている。設問に、読み比べや図表の読み取り方があるので、思考を深められるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入に設定された【学びの扉】は、中学生が日常生活の中で、陥りがちなつまずきの場面が漫画で描かれている。同じ疑問を持ったり同じつまずきをしたり等の経験をしたことがある生徒にとって意欲的に取り組めるようになっている。言葉の使い方、どうすれば相手に伝わるのかを考えられるようになっている。 ○【話すこと・聞くこと】【書くこと】の教材では、活動過程の具体例や完成作品例、途中段階の例、対話の例が豊富に示されており、生徒のスムーズな活動を支援する配慮がなされている。 <p><読書を通して、人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年に応じて【本のポップを作ろう】【ビブリオバトルをしよう】という読書活動が設定されている。また、3年生では【将来の目標や計画を立てよう】というテーマで、これからの読書生活に役立つ内容となっている。 ○著名人による【私のおすすめの本】や読書案内【本の世界を楽しもう】で、様々なジャンルの図書が紹介され、読書への興味や関心を喚起している。 ○【読書への招待】では、文豪と呼ばれる作家の作品や生涯を掲載し、名作に触れるきっかけを作っている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○【学びの扉】では、生徒の日常を描いたような場面が掲載されている。誰もが同じ経験で困った、確かにそうだったと共感できる場面なので、その後の学習が意欲的に取り組めるようになっている。 ○写真やイラストはやや少ないが、一つ一つの写真やイラストは大きくなっている。 ○3年間、【言葉の力】を囲う色や、強調したい文字等は統一されていて、生徒は読みやすい。ユニバーサルデザインの視点でしっかりと考えられている。 	
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目次の次に【学習の進め方】【教科書の使い方】が示されているので、生徒は一目見て、何をあらわしているのか理解できるようになっている。 ○脚注罫線1行ごとに点が示されているので、生徒が【何行目】と発言した時には、すぐにわかるような工夫がされている。(教育出版も同じ) ○【類】【対】【意】【文】【新出漢字】の上には、教科書のどの行数に書かれているか明記されている。また新出漢字は【類】【対】【意】【文】よりも大きく書かれているので、一目でわかるようになっている。 ○巻末の【言葉を広げよう】では、学年に即した語彙を収録しており、豊かな言葉をたくさん学習できるようになっている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本編・基礎編・資料編の3部構成となっており、中学校で身につけたい【言葉の力】が、3年間を通して系統性、段階性をもって、全て学べる構成になっている。 ○本編の後ろに掲載された基礎編【学びを支える言葉の力】では、【整理する力、分析する力、議論する力、解釈する力、表現する力、伝え合う力】の6系統を網羅した、言葉の基礎力を鍛えることができるような工夫がされている。 	

教科【国語】・種目【国語】

書名 項目	現代の国語	15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各領域とも丁寧に学習過程を示し、「見通し」→「主体的・対話的で深い学び」→「振り返り」という学びのステップを明確にすることで、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得できるように工夫されている。 ○各教材の学習過程に即した「思考の方法」を示すとともに、各学年の第6単元に情報の扱い方に特化した単元「情報に関係づける」を設けるなど、情報を的確に捉え、考えを深めるための知識・技能を身につけられるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読み方を学ぼう」では、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための技やこつを学ぶことができ、この技とこつを使うことで読解力や思考力の向上が図れるようになっている。 ○各学年の第1単元に「グループディスカッション」を配置し、話し合いのこつを系統的に学べるなど、共同的な言語活動の場を適切に設けており、効果的で活発な言語活動に取り組めるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題に向き合った説明的文章や、身近で取り組みやすい文学的文章等、生徒の読む意欲を喚起する魅力的な文章教材が豊富に掲載され、主体的な学習を促している。 ○各教材の振り返りに設定された、語感を磨き語彙を豊かにするための「語彙を豊かに」や、学びをさらに広げたり深めたりできる「学びを広げる」により、深い学びを実現できるように工夫されている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材末尾の「私の本棚」では教材文に関連した図書が、巻末の「読書の広場」では様々なジャンルの図書が紹介され、ものの見方や考え方が深められるように工夫されている。 ○生徒の発達段階に応じて「ブッククラブ」「ビブリオバトル」等の多様な読書活動が系統的に配置され、また著名人による「私の読書体験」を掲載するなど、読書に親しむ習慣づけとなるような工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末には全学年共通で、インターネットや図書館の活用方法をまとめた「情報を活用する」、メモや辞書の活用の方法等をまとめた「社会生活に生かす」が掲載されており、学習を支え、社会生活に生きる豊富な資料で実践的な力を育てるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で統一された淡い色合いで構成され、優しい印象を受ける。学習の要点がひとめでわかるレイアウト、読みやすい文体や改行などの工夫がされている。 ○「読み方を学ぼう」をはじめとして、わかりやすい図解を随所に用いることで内容を視覚的に捉えられるようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年巻頭には、学習指導要領の評価の観点に合致した「つきたい力」が明示され、見通しをもって主体的に学習できるように工夫されている。 ○各教科に文章を読み解くための方略を示した「読み方を学ぼう」や、説明文教材の前に読み方が練習できるプレ教材を配置するなど、「学び方」を学ぶことにこだわって作成されており、生徒自身が自覚的に活用することで確かな学力が身につけられるよう工夫されている。 	

教科【国語】・種目【国語】

書名 項目	伝え合う言葉 中学国語	17 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の地図」で課題を考えるためのキーワードが七つにまとめられている。3年間でそれぞれの単元に位置づけられている。 ○教材の前頁に「学びナビ」が設定されている。学び方のヒントや、さらに読みを深めるための手立てが掲載されている。キーワードを抜き出すワークシートも用意されていて、全体の構成を把握させて学習に向かえるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学入門教材として「桜蝶」が掲載されている。同じできごとが書かれたA・B二つの作品があり、「どのように書かれているか」が理解できるようになっている。 ○文章の読み方が身に付けられるように、「学びナビ」で内容を捉えられる手がかりが提示されている。思考力を深め、汎用的な読む力を形成させるような工夫がなされている。 ○教材には正解のない問いが用意されていて、現代社会を生きる一員として考えを深め、学びが展開されるようになっている。 ○言語活動では学習課題の流れがカラーを使って分かりやすく提示されていて、台詞を通して予想される発言が提示されているので、親しみやすく取り組みやすい。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字だけではなく「この教材で学ぶ言葉」がまとめて掲載されているので生徒が自主学習に取り組みやすく、言語感覚を広げ、豊かになるような工夫がある。 ○古典教材では作品の特徴や特質を踏まえ、内容の理解を深めるための「みちしるべ」が設定されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みちしるべ」では、本の帯やポップ作り、レポートの書き方、図書館やインターネットの利用の仕方、ビブリオバトルなど、各学年に応じた読書活動が紹介されている。 ○「広がる本の世界」では各単元のキーワードと関する図書が紹介されたり、SDGsのキーワードによる分類で紹介されたりしているなど興味を惹くように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての教材・資料が持続可能な開発目標「SDGs」の観点と関連させ、生徒が未来を意識し言葉や表現を通し創造力やキャリア観を高められるようになっている。 ○学習に役立つ情報をウェブサイトで見られ、家庭学習の手立てになっている。 ○表紙と中身が統一された淡い色合いで構成されていて、優しい印象を受ける。ユニバーサルデザインの視点からも良い。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○脚注罫線に、一行ごとに点を示したり五行ごとに数字が振られたりしているので見やすく読みやすい工夫がされている。 ○教材の種類によって右端や上段にカラーが使われていて、項目ごとの柄が設定されていて生徒が作品を見つけやすいような工夫がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が国語の「学び方」を自覚的に習得し活用できるように、教材文や活動の前に「学びナビ」が示されている。「何を学ぶか」が明確になっており、学習の見通しをもって学習を進められるように工夫がされている。 ○3年間を通して各単元には生徒がさまざまな課題について考える手立てになるよう「表現／対話／思想」「自然／環境／科学」等の三つずつのキーワードを七つにまとめて設定し、日常生活で直面する現代的、現実的な課題や学ぶべき課題が示されている。 ○全編を通して持続可能な開発目標SDGsを踏まえ、社会や世界が直面する課題や多様性に触れた教材になっている。言葉や表現を通して自分自身の未来や、社会を担う一員としての世界と関わり、どのように生きていくかの考えを深められ、世界を創造していく力が言語によって養えるような編集になっている。 	

教科【国語】・種目【国語】

書名 項目	<h2 style="font-size: 2em;">国語</h2>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 38 光村 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用デジタル教科書の資料やコンテンツを視聴することで、教科書の内容を広げたり深めたりすることができ、生徒の意欲を高める工夫がなされている。 ○各単元に「見通しをもつ」「振り返る」の欄が設けられ、学習の過程も明示されているので、何をどのように学習していくのが明確になっている。 ○学習のポイントを体系的に表した「学習の窓」、語彙の量と質を高める「語彙を豊かに」など、知識を活用するためのページが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元に「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」のように、系統ごとに学習課題が提示されていて、論理的に思考できるよう工夫されている。 ○どの学年にも「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」が設置されている。普段起こりがちなコミュニケーションにおける誤りを出発点に、具体的な解決方法が図や表をつかって明確に表現されている。また、情報を伝える道筋や情報を伝える価値が理解できるよう工夫がなされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章には、時代を超えて親しまれる作品と今の生徒に寄り添う新しい作品とをバランス良く選び、説明的文章には生徒の知的好奇心をかき立てる作品を取り上げるなど、我が国の言語文化を享受し、新たな創造へとつないでいく態度を育成するよう配慮されている。 ○各学年の最後に、1年間で習得した資質・能力を生かして3領域それぞれの問題に取り組む教材「学習を振り返ろう」が新設され、自分が「何ができるようになったか」を自覚し、日常生活に生かしていけるよう配慮されている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本のポップ」「読書掲示板」「読書記録」「本の紹介合戦」「読書ポスター」「読みたい本のリスト」「ブックトーク」「読書会」など、読書活動の例が学年に応じて設定されている。3年生では「読書生活をデザインしよう」というテーマで卒業後の読書生活につながる内容となっている。 ○読書にまつるコラムや、単元に関連する図書の本文や表紙の写真により、生徒の興味関心を高めている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的文章などでは、写真や挿絵が思考力を広げるための手立てになっている。 ○「広がる読書」では、書籍が多数紹介されており、その中には紹介文も添えられているものも多い。生徒の興味をひきさらには教材学習後、生徒の学びが深まるような工夫がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習上の配慮を施した自社開発フォントを用いている。 ○小学校の学習内容を織り交ぜながら各学年の発達段階を考慮するとともに、生徒の学習意欲を喚起するために幅広い分野から教材を精選している。 ○古典学習の始まりとして、伝統的な言語文化の豊かさを感じ、学習への期待を高めていけるように、色鮮やかなイラストとともに多彩な作品を紹介している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年巻頭には、1年間でどんな学習をし、どんな力をつけるかを学習指導要領の評価の観点に合わせてまとめられた「学習の見通しをもとう」が置かれ、生徒が自ら学習の見通しをもったり、既習事項の確認をしたり、自己評価をしたりすることができ、主体的・対話的で深い学びにいきなう構成になっている。 ○「読むこと」の手引きとなる「学習」ページ、および「話すこと・聞くこと」「書くこと・読むこと」の最初のページが見開き構成になっており、学習目標や学習過程が一覧できるようになっている。これにより、学習全体を見通し、自己調整しながら学習に臨み、身につけた力を振り返るまでの学習を主体的に押し進めることができるよう工夫されている。 	

